



せん げん やま  
**浅間山**

可児市立東可児中学校  
令和5年6月22日発行

「さりげなくも温かい」

生徒指導主事 梅田 佳宏

3年生国語科の「学びて時に之を習ふー『論語』から」では、孔子の思想である「仁」、つまり、思いやる心について、4つの例文を通して学習します。はるか昔に残されたこの言行録は、今の私たちの生活の中にも生きています。

思いやる心といっても、その表し方は千差万別です。言葉で伝えても、100%その思いが伝わるとも限りません。かといって、何も言わなければ、相手には何も伝わりません。以前よりも、伝えることが難しくなっているのかもしれない。だからこそ、試行錯誤しながら伝える力を身に付けていく必要があるとも言えます。



5・6月は、修学旅行や宿泊研修などの行事がありました。保護者の皆様や地域の方々の御協力もあり、滞りなく実施することができました。その中で、6・7組の生徒の思いやる心の表れが目にとまりました。

研修当日、6・7組の教室の窓には、右のような飾りつけがされていました。天気が心配なときは、てるてる坊主の飾りつけが、また、コメント入りのホワイトボードメッセージのときもあれば、画用紙に絵と文字でメッセージをつくるときもありました。どの学年が研修に行く際も、必ず、窓には「いってらっしゃい」「おかえり」の飾りつけを準備しているのです。



飾りつけを作成している場面で教室に入ると、準備しているときの生徒の表情が、実に穏やかで優しいのです。飾りを見た相手の表情を連想しているかのような、柔らかい表情でした。作成している姿を見ていると、こちらも温かな気持ちにならずにはいられませんでした。

実は、6・7組の生徒は、こうした飾りつけを、昨年度から続けているのです。6組の先輩から、学んだ人を思いやる心と、その表現方法に、自分たちのアイデアを加えてアレンジして表現した7組の生徒たち。飾りつけの作成を通して受け継がれていく思いやりの心と、その表現の仕方。本校生徒の温かさは、このように受け継がれていく、さりげない日常的な優しさを基盤にしているのだと再認識しています。



こうした生徒の営みを支え、見届け、生徒と共に見方や感性を磨いていくことが、生徒の安心で安全な生活を保障すること、そして、魅力的で笑顔の学校づくりを推し進めることになるのだと感じています。



東可児中ポータルサイト

